

HIO YOG

教区新報

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

2009.11 159号



三奉請で天井からの無数の散華
午後5時、一日目より、「野菊の会」。「アブサラス」。「香華コーラス」。「ゴール花」。「兵庫教区仏教婦人会連盟合唱団」によって、仏教壮年の歌などが披露され、美しいハーモニイで引き付けた。また、それぞれの会の特色を

生かした聴衆参加型のコーラスで、最後には盛大な拍手が送られた。
コーラスの後、兵庫教区教務所長の挨拶では、「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に向けて、諸事業について」と題して、この度の法要の意義は、大遠忌のお待ち受けであると共に、教区で策定した長期計画を推進しよう、「法要をお勤めし」、「宗祖の教えを身につけ」、「人を育て」、「活性化されたお寺・諸団体につなげていこう」とするものであります。
それは「同期運動」「門信徒会運動」という宗門の基幹運動推進の為であります。
兵庫教区は五年前に一萬三千人の「御同朋総結集一万人大会」を実施しました。
その折には、「宗祖のお心としてお法りを伝えよう」、「共に生きるお寺を育てよう」、「生活信条を実践しよう」、「尊いのちを大切にしよう」という申し合わせがなされました。

二〇〇四年に環境分野の活動家として、史上初めてケニア出身のアフリカ女性で、ワンガリ・マータイ氏がノーベル平和賞を受賞した。翌年来日した時に、たまたま日本語の「もったいない」という言葉を知った。現在は、その言葉を世界共通語として広める運動を国連で発言し、世界中で活発に展開し続けている。その後日本でも、各企業が資源循環型のビジネスやキャンペーン活動を活発に行っている。その精神の象徴として、風呂敷ブームも起こった。日本人は、年間一人あたり平均服を十kgを買い、九kgを捨てているといわれる。「もったいない」は3R運動(リユース再利用・リサイクル再生利用・リデュース消費削減)の経済的概念だけでなく、もっと根源的に物や自然の命あるものに対する慈しみや感謝、敬意の思いが込められている所に注意を払う必要がある。蓮如上人が廊下に落ちている紙切れに、「二枚の紙もこれみな仏法領、もったいない」と押し頂かれたという話が思い出される。これは環境破壊に結びつく「大量生産」「大量販売」「大量消費」の対極にある。我々僧侶も、外に向かつて「もったいない運動」を声大にして発信しなければいけないと思う。環境問題だけでなく、現代人の心のあり方も救うキーワードかも知れない。
阪神西組善教寺 赤井秀顕

九月三十日(水)〜十月四日(日)の五日間に渡り、本願寺神戸別院において、「親鸞聖人七五〇回大遠忌 兵庫教区仏教壮年・門徒推進員等別院総参拝」が実施された。

平成二十三年四月から京都の本願寺にてご修行される「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」のお待ち受けとして気運を盛り上げると共に、親鸞聖人独自の発揮である「現生正定聚」の教えを研修し、後継者・人材の育成と、寺院・教区全体の活性化を計るといふ、長期計画の遂行に互いに手を携え、推進していくと誓い合うための行事である。

午前中は、三階の本堂にて法要が勤まり、各組代表の仏教壮年と門徒推進員による伝供の後、僧侶・参拝者の皆で正信偈をお勤めした。
三奉請では、僧侶の散

仏壮・門推等総参拝

〜今、大切なことがあつた〜

定聚」の教えを研修し、後継者・人材の育成と、寺院・教区全体の活性化を計るといふ、長期計画の遂行に互いに手を携え、推進していくと誓い合うための行事である。

華に合せて天井から無数の散華が行われ、また、正信偈のお勤めでは、内陣で僧侶がご本尊を中心に右回りに回りながらお勤めする行道作法が勤まった。
法要に引き続き、「現生正定聚」を講題として、日替わりで五人の講師がお話をされ、一日目から光森常之師(阪神西組常宣寺) 寶池龍祥師(多可組正福寺) 應供乘生師(城崎組清蓮寺) 堀止昭師(揖龍西組明正寺) 青木敬介師(網干組西念寺) の方々に、それぞれの味わいから、お話を頂いた。

教区だより 11月・12月

11月		12月	
1 (日)	門推 第48回研修会 (北摂組照願寺)	24 (火)	キッズサンガ委員会 14:00
5 (木)	基推講師団研修会 10:30 僧侶研修会 (大阪教区 神戸修師) 13:00	25 (水)	青僧会役員会 15:00
6 (金)	第1回連研のための研究会 13:00	26 (木)	第20期ビハーラ活動者養成研修会 (宍粟まどか園27日まで)
7 (土)	別院第一土曜仏教講座 (備後教区 竹政信至師) 仏壮常任理事会・理事会 10:30	27 (金)	別院報恩講 (安芸教区 高橋哲了師29日まで)
9 (月)	仏青 第3回全国大会実行委員会 14:00	4 (金)	少年連盟 報恩講スタッフ会議 14:00
12 (木)	別院仏教婦人会研修旅行 (城崎方面)	5 (土)	仏壮幹部一泊研修会 (6日まで) 別院第一土曜仏教講座 (滋賀教区 藤澤信照師)
13 (金)	寺院活性化部会「現地視察」(朝来・養父組)	14 (月)	近畿地区仏教婦人会大会 (グランキューブ大阪)
15 (日)	別院常例法座 (兵庫教区 寶池龍祥師16日まで)	15 (火)	仏婦コーラス練習会 10:30 別院 常例法座 (兵庫教区 大西宝雲師16日まで)
16 (月)	少年連盟役員会 15:00	16 (水)	少年連盟役員会 15:00
17 (火)	総代会岡山ブロック研修会 (岡山北組宝福寺)	26 (土)	報恩講子どもの集い
18 (水)	仏婦50周年レセプション (ポートピアホテル)	31 (木)	別院除夜会
19 (木)	仏婦50周年記念大会 (神戸国際展示場)		



説明される楠住職
楠住職は「親鸞聖人の七百五十回大遠忌をお迎えするにあたり、一人でも多くの人にお寺に足を運んでもらえたらと企画した。佐野さんの版画から宗祖のご苦勞を感じてもらい、そのみ教えの大切さを考えていただけました」と語る。

自作の版画で偲ぶ 聖人のご生涯

兵庫県赤穂市の永應寺(楠哲雄住職)で九月二十日から一週間、同寺門徒の佐野正幸さんが親鸞聖人のご生涯を二十枚の版画で描いた「私版 親鸞聖人伝絵」の展示が行われた。
佐野さんは、四年前に「私版 法然上人伝絵」を制作したが、その時から「法然聖人と表裏一体となる親鸞聖人も」という思いがあつたという。
そんな時に、楠住職からも製作を勧められ、青蓮院の親鸞聖人の版画や江戸時代の伝記の挿絵などを研究し、一年かけて製作した。
「身分や性別、職業などに関係なく平等の救いを説かれたのが法然聖人。その教えを受け継ぎ、人間性、人間の内面をどこまで大事にして生きるかということを示してくれたいのが親鸞聖人です。この思いを自分なりに表現させていただいた。」と佐野さんは思いを語る。
期間中には同寺門徒のほかにも近所の方や通行人など多くの方が訪れ好評を博していた。
楠住職は「親鸞聖人の七百五十回大遠忌をお迎えするにあたり、一人でも多くの人にお寺に足を運んでもらえたらと企画した。佐野さんの版画から宗祖のご苦勞を感じてもらい、そのみ教えの大切さを考えていただけました」と語る。



タドコロ マサシ 田所 雅士

新職員紹介

敬 弔

左記の方がご逝去されましたので謹んで敬弔の意を表します
釋氏孝(阪神西組源光寺前坊守) 平成21年6月22日89歳
善本義孝(神戸西組順照寺前住職) 平成21年7月13日82歳
大勢智雄(網干組圓通寺住職) 平成21年7月14日86歳
横山澄子(姫路南組善正寺坊守) 平成21年7月21日82歳
藤本千代子(阪神南組明宣寺前坊守) 平成21年7月24日91歳
森本多鶴子(阪神西組萬照寺坊守) 平成21年7月26日72歳
宇野修己(宍粟組圓徳寺前住職) 平成21年8月7日83歳

先般、七月一日付け人事にて、沖繩県宗務事務所から兵庫教区教務所へ配属となりました。
何かとご迷惑をおかけするかとはい思いますが、みなさまの更なるご指導、ご鞭撻をいただき宗務に勤しみたく存じます。
松田祥代(宍粟組正福寺坊守) 平成21年8月7日49歳
和仁トラ(神戸中組教秀寺前々坊守) 平成21年8月8日100歳
幡多信了(出石組西方寺前住職) 平成21年8月8日94歳
保藤義慶(神戸東組真照寺前住職) 平成21年8月8日98歳
藤澤大紀(城崎組光永寺前住職) 平成21年8月17日68歳
肥塚義彦(宍粟組光泉寺住職) 平成21年9月1日73歳
竹内泉(網干組教蓮寺坊守) 平成21年10月4日48歳
楠俊子(神戸湊組廣福寺前坊守) 平成21年9月24日88歳
【敬称略】
10月27日現在



二〇〇四年に環境分野の活動家として、史上初めてケニア出身のアフリカ女性で、ワンガリ・マータイ氏がノーベル平和賞を受賞した。翌年来日した時に、たまたま日本語の「もったいない」という言葉を知った。現在は、その言葉を世界共通語として広める運動を国連で発言し、世界中で活発に展開し続けている。その後日本でも、各企業が資源循環型のビジネスやキャンペーン活動を活発に行っている。その精神の象徴として、風呂敷ブームも起こった。日本人は、年間一人あたり平均服を十kgを買い、九kgを捨てているといわれる。「もったいない」は3R運動(リユース再利用・リデュース消費削減)の経済的概念だけでなく、もっと根源的に物や自然の命あるものに対する慈しみや感謝、敬意の思いが込められている所に注意を払う必要がある。蓮如上人が廊下に落ちている紙切れに、「二枚の紙もこれみな仏法領、もったいない」と押し頂かれたという話が思い出される。これは環境破壊に結びつく「大量生産」「大量販売」「大量消費」の対極にある。我々僧侶も、外に向かつて「もったいない運動」を声大にして発信しなければいけないと思う。環境問題だけでなく、現代人の心のあり方も救うキーワードかも知れない。
阪神西組善教寺 赤井秀顕

その数年後にこの長期計画を立てさせていたのだ。いた訳であります。その下敷きは一万人大会でありませぬ。

このような一連の中の大きな大きなうねりとして、今度の大遠忌をお勤めさせていただきたいと思ひます。

この教区・別院の大遠忌であれ、京都の本願寺の大遠忌法要であれ、我々が宗祖の前でご挨拶を申し上げますときは、「一歩でも半歩でも、そのよな気持ちで基幹運動を進めてまいりました。その姿が、ここにあります。」というようなご挨拶がしたいものであります。と述べた。

基調講演には、作家の真継信彦氏をお招きし「親鸞・本願他力の信心」と題して、ご講演いただいた。

真継氏の著作には、盗賊から浄土真宗に帰依する男を描いた小説『鯉』（文藝賞受賞）、「個人全訳親鸞全集」、「私の蓮如」、「無明」など多数の著作がある。



真宗の根本を話される真継氏

真継氏はお話の中で、親鸞聖人の救いの根拠は、「仏説大無量寿経」にある本願文である。

この本願文の「至心・信楽・欲生我国」の三心は、伝統的な解釈では「人間の心」と読まれていたが、親鸞聖人は「阿彌陀仏のみ心である」と主張された。

たとえば私たちに真実の心はあるのだろうか？

ありはしない、私たちにあるのは濁悪邪見の利己心のみである。同様に、私たちに本願を信じる殊勝な心も、浄土へ往きたい気持ちもない。何度でも我欲我執の人間に生まれ変わりたい。

親鸞聖人は、そんな我欲我執の人間の実存を洞察していたゆえに、文法を超えて、本願文の三心を阿彌陀仏のみ心と、本願他力であると断定された。

本願とは簡単にいえば、「念仏申せ、浄土へ来い」という阿彌陀仏なる他者の命令（力）である。それに無条件に従うのが、親鸞聖人の、本願他力の信心である。

これは、私（自力）の信心ではない。私たちが称える「南無阿彌陀仏」の中に、阿彌陀仏ご自身の清浄真実なる信心がこめられていて、私たちがそれを頂くのである。阿彌陀仏はこの世に何事が起ころうと、ご自身の救済能力に安心しきつておられる。私たちがその安心（信心）を頂くのである。

頂いたところに、嘘いつわりの世界に、弥陀の不可思議な慈悲が満ちみちていることを親鸞聖人は感得したのであり、その時に、限らない感謝、仏恩報謝の思いに浸されたのである。

切であり、特に兵庫教区は、宗門を背負った重要な位置に居る教区であります。親鸞聖人七五〇回大遠忌法要円成に向け、ぜひとも教区をあげてご支援をお願いしたいなどを述べられた。

西脇修総務 就任祝賀の集い

西脇修宗会議員の総務就任祝賀の集いが、九月二十八日（木）午後四時より、神戸メリケンパークオリエンタルホテルで盛大に行われた。兵庫教区内の僧侶・門徒役職者等およそ百四十名が集う祝賀会であった。

最初に発起人代表として多田満之教区会議長が開会の挨拶を述べられた。西脇修総務は「八月五日にご門主から宗派の総務を任せられました。担当は法制部であります。今、基本法規である宗制は終わりましたが、もう一つの大切な基本法規の改正であります。大変だと思ひながら毎日その仕事でいっぱいあります。二つめには社会部であります。就任早々、佐用町また宍粟一宮町の災害がありました。そしてもう一つは城陽のビハーク施設、ターミナルケア・終末期医療の診療所と特別養護老人ホームがございますが、満杯

でございます。その関係の仕事も私の担当でございます。最後は人材育成でございます。育成研修部の得度教師、中央実習、中央教習、連続研修会等、それらの見直しをしているところでございます。」「と言われ、「これからますます教区の皆さまからのご支援ご指導をおおがなければこの仕事は全うできないと深く受け止めていることとさせていただきます。」と挨拶された。

続いて来賓祝辞となり、豊原大成宗会議員は、温故知新の言葉があるように、新たなことを行う場合に、古きことを知らずして行えることは無く、そのことから考えると、父親のご活躍またご苦労が西脇修総務へ受け継がれ深い蓄積となっており、これまでの宗門を知り、これからの宗門を担うに他に代えようの無い人材であるなどを述べられた。また、菅義成宗会議員は、総長、総務が職務を全うするには、所属する教区からの盛り上げが大



代表して職員から西脇総務に花束を

切である。そのような真実信心を頂いた人を「正定聚」と言う。親鸞聖人の時代の正定聚の人たちは、数十人も集えば満堂の板敷きの道場に集い、正面に掲げられた「南無阿彌陀仏」の名号の前で、ともに念仏し、信心について語りあい、ささやかなご馳走を持ち寄って食べたのである。当時の身分社会の中において、この念仏道場には、平等で自由で、平和な人間の集まりがあった。と。参加者には少し難しかったかも知れないが、聖人の教えの根本にふれるお話を頂いた。閉会式では参加者を代表して、西畑博亮門推副会長・西田孝弘門推理事長・坂本旭門推会長・平井孝彦門推理事長・多田稔門推副理事長の五名が決意表明を述べた。「ご本山におきましては二〇一一年（平成二十三年）に「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」をお迎えいたします。

台風9号 集中豪雨災害 義援金報告

先の台風9号による集中豪雨災害発生以来、各方面から義援金が寄せられました。教務所へ届けられたもの（8月17日から10月23日まで）を掲載させて頂き紙面をかりて厚く御礼申し上げます。（敬称略・受付順）

- 尚、11月2日現在、六百九十一万七千六十一円をお寄せ頂き、教区より被災された各寺・ご門徒宅へ一千九十八万円伝達しております。
- ▼神戸湊組顕證寺▼阪神西組西福寺▼北海道教区教務所▼たすけあい運動募金▼出石組福成寺▼安芸教区教務所▼多紀組法誓寺▼宮崎教区教務所▼宮崎教区仏教婦人会連盟▼城崎組信楽寺▼阪神東組圓融寺▼姫路中組法性寺▼揖龍東組正覚寺▼高砂組蓮教寺▼揖龍東組善行寺▼揖龍東組圓福寺▼赤穂南組法光寺▼新宮組専念寺▼宍粟組圓徳寺・

その前年に修行される「兵庫教区・本願寺神戸別院 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」の円成に向け、本日教区内全寺院の仏教壮年・門徒推進員等が別院に総参拝させて頂きました。

親鸞聖人の独自の發揮である「現生正定聚」のみ教えを聞き、いま、まさに、仏の智慧を得た仲間として、このご勝縁を慶ばせていただきました。

また、この大遠忌長期計画のキャッチコピーである「今、大切なことば」があるには、お念仏のみ教えに生きる、わたしたち一人ひとり、今、大切なことばとは何なのかを教えの中に学び、大遠忌以降をも見据えた大切なことばとして発信して世の中に訴えていくとの願いがある、と聞かせていただきました。

私たち仏教壮年・門徒推進員等が自ら聞法し伝道する推進役となり、ともにお念仏申す仲間の輪を広げ、自他ともに心豊かに生きることでできる御同朋の社会の実現に貢



バスで帰路につかれる参加者

各代表の力強い決意表明の後、最後に参拝者全員で恩徳讃をお勤めし、総参拝は終了した。一昨年の、総代総参拝、昨年の寺族婦人会・仏教婦人会総参拝に続く総参拝で、来々修行される「兵庫教区・神戸別院 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」を前に、教区各教化組織の締めくくり総参拝として大きな意義のある法要となった。

台風9号 集中豪雨災害 義援金報告

先の中豪雨災害発生以来、各方面から義援金が寄せられました。教務所へ届けられたもの（8月17日から10月23日まで）を掲載させて頂き紙面をかりて厚く御礼申し上げます。（敬称略・受付順）

- ▼岡山西組西善寺▼宍粟組明證寺▼新宮組浄教寺▼山陰教区因幡組仏教婦人会▼山口教区教務所▼阪神東組専正寺仏教婦人会▼兵庫教区仏教婦人会連盟▼阪神西組住職会▼阪神北組長宣寺▼養父組浄念寺▼朝来組圓照寺▼揖龍東組西樂寺▼姫路中組お持ち受け募金▼兵庫教区布教団十方会▼熊本教区仏婦連盟▼山陰教区因幡組仏教婦人会▼石川教区教務所▼神戸西組安



ご門徒宅にて義援金の伝達

- 楽寺▼赤穂南組誓教寺▼淡路組宣勝寺▼高砂組光照寺仏教婦人会▼大分教区正善寺藤井邦磨▼松井須美男▼神崎組正福寺▼岐阜教区西濃北組▼淡路組宣徳寺門徒一同▼阪神北組勝福寺▼阪神東組仏教婦人会連盟▼兵庫教区寺族婦人会連盟▼ピハーク兵庫▼加古川組善照寺▼揖龍東組西信寺並びに西信寺門徒会▼岡山西組西念寺▼淡路組浄光寺門信徒会▼姫路中組善養寺・善養寺護持会・善養寺仏教会▼東北教区教務所▼門推第四八回研修会募金

組ブロック巡回終わる!!

九月一日より始まった、「組ブロック巡回協議会」が十月末をもって終了した。

この度のブロック巡回の目的は、教区の課題を確認し、何を重点的に取り組むことがこの教区の充実発展に繋がるのか、また親鸞聖人七五〇回大遠忌の本山・教区円成に向けた課題などを、共に協議する場として開催された。

各ブロックのブロック巡回開催日は◆岡山ブロック



教区・別院大遠忌を広報する前期のポスターとチラシ

ク/九月一日/湯郷温泉・湯の蔵つるや◆姫路ブロック/九月七日/姫路中組法性寺◆丹波ブロック/

九月八日/氷上西組正福寺◆但馬ブロック/九月十一日/養父組安楽寺◆阪神ブロック/十月八日/阪神東組西正寺◆神戸ブロック/十月十三日/神戸別院◆東播ブロック/十月二十二日/播磨東組晴龍寺◆西播ブロック/十月二十九日/揖龍西組徳行寺。

主な協議内容は、親鸞

聖人七五〇回大遠忌法要に向けての教区の方角性や長期計画の進捗状況、台風九号による集中豪雨災害に関する報告、各ブロック・組における現状や諸問題についてであった。教区からの長期計画現況報告の内容は。

【法要行事部会から】兵庫教区・神戸別院親鸞聖人大遠忌の修行、来年の秋に本願寺神戸別院で兵庫教区全域の僧侶と門信徒が5千名規模での参拝者を目標に修行されることになった。◇期日/平成二十二年九月三日/十月八日/十月四日は中休◇開催時間/十二時半~三時半を予定◇場所/神戸別院三階本堂※一階ホールはイベント、パネル展、ビデオ上映等を予定◇募集人数/五千名、一日一座八日間◇その他/参加費を徴収しない、昼食は各自で、法要は宗祖讃仰作法を依用。※讃仰作法の普及のため特別法務員部会での指導員を養成し、各組に向いての指導も予定する。

【教学振興部会から】聖人を讃仰するため一般の方や、門信徒の皆様にも配布の冊子を作成する。また、多くの方々にみ教えにであっていただくため、多様な分野からの記念講演やシンポジウムを開催し宗祖は世の中に何を発言しているのかなどを明確に世に訴える。読本作成としてテーマは「現生正定聚」とし、初めて法話を聞く人にも解る様な内容にする。記念講演として、来年の六月頃に神戸国際会館に、五木寛之氏を依頼して、一般の人を対象として開催する。

【人材育成部会から】一番の宝は人であるとの思いから、各組においての若手僧侶、寺院子弟の勉強会の立ち上げ離郷僧侶、住職後継者の神戸別院での研修と育成を推進する。

【寺院活性化部会】都市部における開教事業と過疎地における対策事業を大遠忌長期振興計画に盛り込み、教区としての施策を実行していく。兵庫教区寺院振興過疎対策(案)については【別記】県北4組組長と協議をし理解を得た。過疎地・過密地を現地視察し、その現状と課題に取り組んでいる。※昨年度は多紀組・阪神北組を視察し、今年度は朝来組・養父組を視察した。教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」に取り組む。【別記】

【別記】教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」に取り組む。【別記】その他、寺院マップの作成や寺院の活性化に關

【広報部会から】教区・別院の大遠忌法要やその教義、その他諸行事を一般の方や、門信徒へ伝えるための広報活動を展開する。教区のインターネットを刷新し広く親鸞聖人のみ教えにであっていただくように、教区内の組・寺院等の諸行事やその他、地図などの情報の公開をしていく。

【別記】教区大遠忌テーマ「今、大切なことは」がある」のバッジを作製しておりますが、一つ六〇円でも販売し広報する。法要修行告知ポスターについても、二案を決め既に前期のポスターとチラシは配布済み。今後、手提げ袋の作製、法要に向けての「子ども新聞」(仮称)、幼少年向け「じゆうがちょう」なども計画予定であります。以上の教区長期計画の進捗状況も報告された。下記は特に必要と思われる二事業について概要を次面に記しました。

【別記】教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」に取り組む。【別記】その他、寺院マップの作成や寺院の活性化に關

【別記】教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」に取り組む。【別記】その他、寺院マップの作成や寺院の活性化に關

【別記】教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」に取り組む。【別記】その他、寺院マップの作成や寺院の活性化に關

**【兵庫教区寺院振興
過疎対策・案】**

一、策案の趣旨／兵庫教区は二〇〇四年一万三千人あまりの人が集い、御同朋の総結集大会を催し次の四つのことをその大会宣言とした。◇お念

仏のよろこびを伝えよう
◇生活信条を実践しよう
◇共に生きる寺を築こ

う◇尊い「いのち」を大切にしよう。この宣言を現実のものとするべく現在親鸞聖人七五〇回大遠忌長期計画を設け実践しようとしている。その骨格は大遠忌法要ご修行と記念行事を中軸にして教学「現生正定聚」の研鑽・一人の育成・伝道開教である。

その中、本案は特に寺院の活性化をめざしての過疎対策であり深刻な状況下にある寺院・門徒への施策である。

兵庫教区特に県北地域は過疎によってご法義相続について深刻な危機的状況下にある。住職が寺院に居住せず門徒が宗祖の教えを捨てて他宗に帰属したり、都市部に移住するのを放置されている

など過疎がもたらす問題は深刻である。この実情を看過することなくこの度の大遠忌計画をもって本問題と真正面に向き合い、然るべき対策を順次実施しようとするものである。

主要な実施事項は概ね次のものが考えられる。1寺院住職後継者・坊守後継者育成の問題。2新規門信徒獲得等開教伝道の問題。3当該寺院への法務支援の問題。4寺院護持運営の問題。5帰属門徒の減少・離散の問題。6寺院解散等相談・支援の問題。7伝道・支援拠点開設の問題。8その他必要な事項。

二、策案の背景と事情
1先年豊岡教堂存廃問題が議論される中地元からの根強い意見として、歴史ある教堂を惜しみ県北における教化センター的機能を備えたものとして残せばとの意見があったこと。2豊岡教堂を教化センターとして再出発するにしろ現建物は危険物と指摘され取り壊しを強いられており教化セン

ター建築資金に目途が立たなかったこと。3現在県北方面には寺檀紛争があり門徒の法務を緊急措置として近隣寺院に依頼しているがいつまでも放置できない状況にあること。4兼職しながら住職として寺院護持に勤めているが兼職先によっては兼職が禁止され随意に葬儀等法務依頼に応えられなくなっている実情があること。

三、伝道・支援拠点の設置（伝道支援センター）
1豊岡方面に然るべき拠点を設け常駐職員を置き県北の可能な地域への支援を行う。2拠点としては豊岡教堂跡地の一部又は、マンションなどの借家を利用する。

四、伝道・支援拠点における当面の支援内容
1各寺院への活性化支援として当該組長と連携し伝道開教活動を支援する。2要請のある寺院への法務支援。兼職住職としては突然の法務依頼に対して日程調整が困難で対処できないことに苦慮している。常日頃から近隣寺

院間で相互扶助のシステムの関係がない場合、拠点の職員が代行支援。3解散等の相談・支援。4その他。以上

院間で相互扶助のシステムの関係がない場合、拠点の職員が代行支援。3解散等の相談・支援。4その他。以上

【兵庫教区寺院活性化事業「教区布教団伝道布教」開催要項】

一、趣旨／兵庫教区布教団は、当教区の大遠忌長期計画における寺院活性化事業に連携し、門信徒並びに一般市民への布教活動を展開し、もって宗祖聖人のご恩に報いようとするものであります。現下、急激な法座の減少に対して、法座の開設こそが寺院活性化、引いては布教伝道活動の充実化につながると考え、全組・全寺院を対象に法座の開設や布教大会の実施を依頼し、布教団員を派遣しようとするものであります。又、現在の法座の在り方や問題点等も確認し、新しい法座の形も模索し、伝道実践に取り組みことを目的としております。

二、主催／寺院活性化事業「〇〇組布教大会」「〇〇組〇〇布教大会」等組

又は、組内三ヶ寺程度が共同して主催する法座・布教大会を基本とし、報恩講・永代経法要等恒例法要に依用することはできないものとしております。三、対象／近隣の門信徒、並びに郡部における門信徒。又、都市部における離郷門信徒や今ま

で真宗の教えにご縁のなかつた方々。四、日程／一座二席ないし三席。五、出講者／教区布教団が選定する布教団員を派遣。六、経費／事前の実施計画内容等により、出講者経費も含め教区及び布教団からの助成をさせて頂きま

教区会研修

教信沙弥と源左同行をたずねて



教信沙弥ゆかりの教信寺

今年度の教区会議員一泊研修が十月二十一日から二十一日に開催され、バス一台を貸し切り、議員の研修と親睦に大いに寄与したことでした。

一日目は教信沙弥ゆかりのお寺を巡って姫路から宍粟を回り鳥取にと道を進め、二日目は妙好人源左さんゆかりのお寺に参拝し、その後観光地や酒蔵などへも寄り姫路駅で解散した。今回のバス旅行は、宗祖が仰がれた教信沙弥と源左さんのゆかりの地を巡ることで、聖人の想いや、仏法を喜んだ源左さんの想いに少しばかり触れさせていただいたありがたい研修でした。